

事務事業名		活きいき座談会開催事業			☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業																								
政策体系	政策名	08: 自立した行政経営の確立			事業期間	予算科目 会計 款 項 目 事業 01 02 01 02 00																							
	施策名	36: 市民参加の推進と協働体制の構築																											
	基本事業名	01: 行政の透明性確保と市政への市民意見の反映促進																											
根拠法令					☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 H14 年度～) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入																								
所属	部課名	企画政策部秘書広聴課																											
	係名	広聴広報係	電話内線	0192-27-3111 282																									
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・各種団体に所属する市民から、専門的な立場での市政に関する意見や提言等を聴くために開催している。 ・対象となる団体は、福祉、女性、青年、商工などさまざまな団体であり、一団体あるいは特定分野での複数団体が考えられる。 ・座談会には、1回10人～25人程度参加していただいております。市側からは、市長、主管部長、企画政策部長、秘書広聴課長が出席している。 ・座談会で寄せられた提言等は、主管課に送付するとともに反映状況(取り組み状況)を報告してもらい、参加者にお知らせしている。 ・市長が自ら市民と懇談する広聴活動は、この活きいき座談会のほか、概ね2年に1回地区毎に市政懇談会や分野毎の市政懇談会を開催している。 ・経費はかかっていない。																													
全体計画 (※期間限定複数年度のみ) <table> <tr> <td rowspan="7">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費 財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事業費計 (A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人件費計 (B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>						総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源	0	事業費計 (A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間	0	人件費計 (B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金																											
		都道府県支出金																											
		地方債																											
		その他																											
		一般財源	0																										
	事業費計 (A)	0																											
	人件費	正規職員従事人数																											
延べ業務時間		0																											
人件費計 (B)		0																											
トータルコスト(A)+(B)		0																											

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段 (主な活動) 前年度実績 (前年度に行った主な活動) 平成17年度に市総合発展計画策定に係る提言を聴取するため、7つの分野で市内各種団体との市政懇談会を開催した。その後、開催していない。 今年度計画 (今年度に計画している主な活動) 各種団体に所属する市民を対象に開催し、意見や提言をいただく。					⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)					
					名称				単位	
					ア	座談会の開催回数				回
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 各種団体に所属する市民					⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)					
					名称				単位	
					カ	座談会への参加者数				人
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) 市政に対して、専門的な立場での率直な意見や提言、要望を述べていただく。					キ	座談会での発言者数				人
					ク					
					⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)					
④ 結果 (基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 市民の声を市政に反映させる。					名称				単位	
					サ	座談会での意見・提言件数				件
					シ					
					ス					
(2) 総事業費・指標等の推移										
		単位	年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (目標)	
投入量	事業費 財源内訳	国庫支出金	千 円							
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円	0	0	0	0	0		
		事業費計 (A)	千 円	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	100	0	0	0	0	100	
		人件費計 (B)	千 円	400	0	0	0	0	400	
		トータルコスト(A)+(B)		千 円	400	0	0	0	400	
⑤活動指標	ア	回	7	0	0	0	0	3		
	イ									
	ウ									
⑥対象指標	カ	人	128	0	0	0	0	45		
	キ	人	114	0	0	0	0	45		
	ク									
⑦成果指標	サ	件	204	0	0	0	0	60		
	シ									
	ス									

事務事業ID	0370	事務事業名	活きいき座談会開催事業
--------	------	-------	-------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
①	この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 甘竹勝郎市長の「さまざまな団体に所属する市民と懇談し、市政に関する意見・提言等を聴くことも大切である。」という考えから、平成14年度から開催している。		
②	事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ ・この活きいき座談会のほか、市民と懇談する広聴活動として、概ね2年に1回開催している地区懇談会がある。 ・これまで、市総合発展計画の策定に当たり、市民の意見・提言等を反映させるため、分野毎に各種団体との座談会(市政懇談会)を開催している。		
③	この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特になし。		

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 参加者から受けた専門的な意見・提言等は担当課で検討され可能なものから順次対応していることから、市民の声が市政に反映されている。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 市民から専門的見地による意見を聴くことは、市民ニーズの把握にとって必要である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 対象となる団体に所属する市民等に参加していただき、専門的な見地での意見や提言をいただいております、市民ニーズの的確な把握ができています。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒ [理由] 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 計画的な開催が必要である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 専門的な見地からの市民の意見や提言等を的確に把握できなくなる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 他の手段では、専門的な見地からの意見や提言等を的確に把握できない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 事業費を要していない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 最低限の所要時間で業務を遂行していることから、これ以上の削減は困難である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 該当なし。

事務事業ID	0370	事務事業名	活きいき座談会開催事業
--------	------	-------	-------------

3 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果（2枚目と整合を図ること） ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		(2) 全体総括（振り返り、反省点） 計画的な開催が必要である。																					
(3) 次年度の方向性（改革改善案）・・・複数選択可（ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可） ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善（ ☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善 ） （上記方向性に対する具体的な内容） ・活きいき座談会の回数の拡大 ・1回あたりの参加者数の拡大		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 （廃止・休止の場合は記入不要） <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 ・適切な団体の選定 ・適切な参加者数の検討																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長 (氏 名)

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	秘書広聴課	
-------	-------	--

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ① 記述水準（1次評価の記述内容を読んだ段階で選択） ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ② 評価の客観性水準（2次評価を行った後に総合的に判断して選択） ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている（事務事業の問題点、課題が認識されていない） ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている（事務事業の問題点、課題が認識されている）		(2) 2次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 平成18年度以降、座談会を開催していない。																					
(4) 次年度の方向性（改革改善案）・・・複数選択可（ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可） ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善（ ☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善 ） （上記方向性に対する具体的な内容） 対象団体や参加者の選定、開催時期、回数、進行方法等、座談会の持ち方をくふうし、積極的に実施する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 （廃止・休止の場合は記入不要） <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
